

NAGOYAKINEMA NEU ナゴヤキネマ・ノイ

クラウドファンディング支援のお願い



名古屋・今池に
ミニシアターを
作ります

私たちは名古屋のミニシアター、名古屋シネマテーク
のスタッフです。

正しくは「でした」になります。というのも、今年七月
に劇場は閉館し、すでに四か月が過ぎました。コロナ
ウイルス感染防止の自粛要請や機材・設備のメンテナ
ンス以外はほぼ毎日、映画作品を映し続けて設立四
十一年を越えた劇場でした。

街の中の、こんな場所に小さな映画館があることを、
初めて訪れる人、通り過ぎるだけの人からさえも驚
かれています。

この意表をつく場所で、様々な国から届いた知られざ
る優れた映画作品を上映し、過去の作品を新しい視
点でみつめ、先端的な映像作品や新人監督デビュー
のささやかな場としても、独自の上映プログラムでう
ごめさ続けるスクリーンは私たちのひそかな誇りで
もありませんが、歳月の中で設備も老朽化し、やむな
く閉館に至りました。

この施設を活かし、設備を再生させ、新しい映画館を
作りたい。

閉館の中で考え続けてきたことを実現するため、クラ
ウドファンディングをはじめます。どうぞよろしくお
願いたします。

なぜいま映画館なのか、なぜこの場所なのか、私たちが映写室の小窓から、受付カウンターから、映画館の裏方として考え続けてきたことをお話しさせていただきます。

●名古屋シネマテーク閉館の公表後は、訪れる観客の方々や映画制作や配給・上映に関わる人たちからの温かい応援の声が常に届いています。

いま現在、多くのミニシアターは経済的な理由から運営の停止や見直しを迫られています。おりしも春には、名古屋市内で長い歴史をもつ東区の「名演小劇場」が惜しまれつつ休館しました。中村区の「シネマスコレ」は独自の上映プログラムにとり組み続けていますが、閉館した名古屋シネマテークを加えたこの3館で名古屋の独立系ミニシアターの歴史を長く刻んできました。ミニシアターの過渡期である今だからこそ、これまでに育んだ映画文化の彩りについて考えると、日々多様化していく現代社会に踏み込んだ新しい作品を取り上げて、映画館から持ち帰ることのできる「何か」を上映し続けていくことの意義を、より強く感じています。

この困難な時代にミニシアターが消えていく主な理由は経営不振によるのですが、最後の数週間は盛況となり、SNSでも惜しむ声が強くなかれ、映画館存続を望むファンが少なくはないことを強く感じる時間にもなりました。もしまだ期待と希望が残されているならば、もう一度、名古屋今池の街でミニシアターを始めたいと思っています。

●現在は動画配信によって映画作品に接する機会も増えつつあります。それと同時に、作品に集中して鑑賞する特別な時間を過ごす場として、映画館は存在しています。その場所を守っていくために、ミニシアターは運営する側のもではなく、広く社会のものになりつつあるという新しい原点に立ち、運営を明解にした働きやすい環境を模索する組織づくりでも、持続性のある映画館を目指したいと考えています。

●名古屋名物のお店もあれば、新進気鋭の初出店も多い飲食店街、そして同時に都市圏の生活の場でもあるのが今池です。そこにはライブハウスや新・古書を扱う書店、小さな出版社やギャラリー、劇団事務所が混在し、音楽・演劇・美

術・文学や映画などの文化的要素も色濃く漂っています。空気を新しく面白くさせていく不可視のスピリットに溢れる“今池ハードコア”の街、訪れる若者そして子どもたちは肩の力を抜いて今池ワールドに浸り、商業地区の店主とスタッフとともに自らが文化を創りだしていきます。

シンボリックな祝祭“今池まつり(いきいき今池お祭りウィーク)”が平成元年に始まり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2回の中止を経て、2022年以降はまた街に大きな活気を呼ぶことになりました。閉館にあたって街を行き交う方々からかけられた無数の声は、新館設立の大きな励みになっています。

永吉直之・仁藤由美
(元名古屋シネマテークスタッフ
ナゴヤキネマ・ノイ代表)



ご協力の呼びかけ 【クラウドファンディング目標金額1,000万円】 2023年12月6日スタート

私たちは、これまで名古屋シネマテークがあった場所(名古屋千種区今池1-6-13 今池スタービル2F)を借り受けて改装し、2024年1月末から2月スタートを目標に新しいミニシアター「ナゴヤキネマ・ノイ」を始めようとしています。元々の設備があったとはいえ、老朽化や現在の仕組みにそぐわないものも多く、相当に手をいれなければなりません。

上映機材や音響機材の整備はもちろんのこと、これまで以上のバリアフリー対応は必要になりますし、内装も今のままというわけにはいきません。座席の予約など、これまでにないシステムの導入も必要になると考えています。

「ナゴヤキネマ・ノイ」設立に向けて、名古屋シネマテークに残された機材をある程度は流用することを前提に自己資金を準備してきました。

新しいミニシアターのオープンにあたって、経費は極力抑えながら始め、息の長い運営をしていきたいと思います。

内装・座席など改装 4,000,000円
換気システム改装 2,000,000円
映写音響整備費 2,500,000円
オンライン予約システム 900,000円

などは、欠くことができず、また、現在使用できる上映用デジタルプロジェクター(DCP)も、数年のうちには耐用年数が尽きる可能性が高いこともわかっています。そのためにも、

デジタルプロジェクター(DCP)
6,000,000円

を、設立時点から検討課題にしておかなければなりません。

主な特典

ステッカー、バッジ、Tシャツ、エコバッグなど、映画館のロゴをあしらってデザインを進めています。ご招待券や期間有効フリーパスなどもご用意してみました。



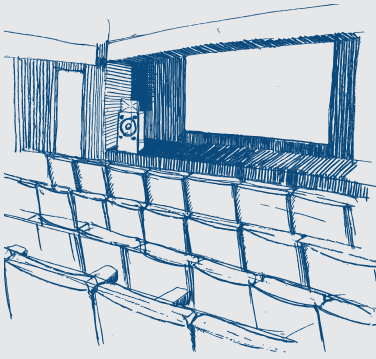
想定されるリスクとチャレンジ

2024年の2月頃のオープンを目指していますが、機材・資材調達などの理由でスケジュールが遅れる可能性がございます。また、少人数のスタッフで進めていますので、リターンの発送も時間がかかってしまうかもしれません。今回のクラウドファンディングで目標金額未達成の場合も、ナゴヤキネマ・ノイの設立に地道に進んでいく決意です。

未来の映画のために

今回のクラウドファンディングは、新しいミニシアター「ナゴヤキネマ・ノイ」がスタートを切るためであるとともに、3年後、5年後の未来に映画をお届けできるようなものとして考えています。広くご支援を、よろしくお願いたします。

みなさんからお声をいただきました



ブツリ途切れた歴史。それを繋ごうとしている人たちがいる…。

名古屋には映画のヘソが2つあった。西の「シネマスコール」、東の「シネマテーク」。2館は、小さくても多様な作品群を上映し続けてきた。「シネマテーク」は、新宿を小振りにしたような混沌の街・今池にあって、「得三」「ピカイチ」「味仙」とともにランドマークだった。何より、「名古屋シネマテーク」は、私たちの『東海テレビドキュメンタリー劇場』を産み出した。『平成ジレンマ』『神宮希林』『人生フルーツ』『ヤクザと憲法』『さよならテレビ』『チョコレートな人々』…。ここがなければ、私たちの映画は存在しなかった。

しかし、もう「あった…」「だった…」という過去形をやめられる。キネマの殿堂を繋ぎ直す、そして新しい映画館として甦らせようとしている人たちがいる。どうか、繋ぐ人たちのため、豊かな映像文化のため、街のため、みなさんのお力添えをおねがいします。

阿武野勝彦さん
(ドキュメンタリー・プロデューサー)

【呼びかけ人として応援していただいている皆様】

相澤虎之助(映画監督)、安住恭子(演劇評論家)、阿武野勝彦(ドキュメンタリー・プロデューサー)、天野天街(劇作家・演出家)、荒川邦彦(中部日本高等学校映画連盟元事務局長)、荒木啓子(びあフィルムフェスティバルディレクター)、安西伸太郎(安西コーポンドー)、五百旗頭幸男(ドキュメンタリー映画監督・記者)、石井岳龍(映画監督)、石井裕也(映画監督)、石原香絵(映画保存協会代表)、石村和子(音楽コーディネーター/シムラ企画)、一尾直樹(映画監督)、井土紀州(映画監督)、伊藤彰彦(映画史家)、伊藤高志(映像作家)、今井智樹(映画監督)、入江悠(映画監督)、岩崎ゆう子(一般社団法人コミュニティシネマセンター)、岩田舞海(コピーライター/源CALLING!)、海上宏美(脱アート研究)、江尻真奈美(シアターカフェ店長)、榎本雅之(シネマイーラ)、榎本憲男(小説家・映画監督)、柄本明(俳優・演出家)、大島新(映画監督)、大島真寿美(作家)、大橋正義(図書出版・人間社代表)、岡田秀則(フィルムアーキivist)、岡本忠征(Stranger)、小田香(Filmmaker/Artist)、折井克比古(樹林舎)、風間志織(映画監督)、梶原志津(アンティーク・リサイクル着物&カフェ蘭丸)、片岡礼子(俳優)、加藤文子(みずたま)、加藤智宏(office Perky pat)、加藤有子(名古屋外国語大学 教授)、川瀬陽太(俳優)、河田昌東(NPO法人チェルノブイリ救援 中部理事/遺伝子組換え食品を考える中部の会 代表)、北村想(劇作家 / 演出家)、木全純治(シネマスコール代表)、木村元彦(ノンフィクション作家)、清原惟(映画監督 / 映像作家)、工藤英明(一般社団法人名古屋演劇鑑賞会事務局長)、黒川幸則(映画監督)、黒崎栄介(Live House HUCK FINN 代表取締役)、黒田杏子(ON READING)、黒田義隆(ON READING)、小泉今日子(歌手・俳優など)、小坂誠(第七藝術劇場)、越川道夫(映画監督)、小林佐智子(映画プロデューサー)、小林広美(フィルムストーカー)、小森はるか(映像作家)、齊加尚代(映画監督)、酒井健宏(名古屋芸術大学 芸術教養領域 准教授)、坂本恭亮(マルゼミ)、佐々木敦(思考家)、佐津川愛美(俳優)、佐藤美代(アニメーション作家)、志尾睦子(シネマテークたかさき)、七里圭(映画監督)、シネマ5、篠崎誠(映画監督)、島田隆一(映画監督)、島野千尋(プロデューサー/風狂映画会)、下平安恵(Live House HUCK FINN)、新見永治(のわ/パレル)、杉浦暢子(P.P.P)、杉田協士(映画監督)、鈴木創(シマウマ書房)、瀬々敬久(映画監督)、仙頭武則(映画プロデューサー)、想田和弘(映画監督)、外畑有満子(tonari<gallery&shop>)、代島治彦(映画監督)、TAYLOW(the原爆オナニーズ)、高橋鏡子(美術評論家/名古屋造形大学教授)、田中誠一(出町座)、千葉真智子(豊田市美術館学芸員)、張世一(元ピーカン・ファッジ)、テライショウタ/GOFISH(ミュージシャン)、土肥悦子(シネモンド)、富田克也(映画監督)、ナカムラ ルビイ(ミュージシャン)、信友直子(映画監督)、能勢陽子(豊田市美術館学芸員)、畑あゆみ(認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭)、波田野州平(映画監督)、馬場駿吉(俳人、美術評論家)、濱口竜介(映画監督)、林鉱治(ウニタ書店)、林緑子(シアターカフェ 運営者)、原一男(映画監督)、原田さとみ(エンシカル・ベネロープ株式会社 代表取締役/一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム 代表理事/一般社団法人日本エンシカル推進協議会 理事)、土方宏史(映画監督)、広小路尚祈(小説家)、深田晃司(映画監督)、福島拓哉(映画監督)、伏原健之(映画監督)、二村利之(セツ寺共同スタジオ前代表)、古澤健(映画監督)、古田一晴(元ちくさ正文館書店/映像作家)、古厩晋之(映画監督)、ほたる(俳優)、堀越謙三(ユーロスペース代表)、ボレボレ東中野、三嶋寛(元居酒屋 六文銭店主)、三宅唱(映画監督)、水野俊之(スペイン食堂BAR DUFI店主/円頓寺パブリッククリエイティブディレクター)、溝口徹(横川シネマ)、宮寄善文(松本CINEMAセレクト)、宮地孝典(読書珈琲リテル)、森達也(映画監督)、森田こころ(モノコト)、森田太郎(K・Dハボン〜空き地〜代表)、森田裕(ライブハウスTOKUZO/今池商店街)、安井喜雄(神戸映画資料館 館長)、山崎紀子(シネ・ヌーヴォ)、山口雅(映画ライター)、山下敦弘(映画監督)、山下律子(あいち沖繩会議/命どう室あいち事務局長)、山村浩二(アニメーション作家)、山本政志(映画監督)、山本妻子(愛知県芸術劇場プロデューサー)、ヤン・ヨンヒ(映画監督)、吉川トリコ(作家)、李銀子(元ピーカン・ファッジ)、李相美(映画プロデューサー)、綿井健陽(ジャーナリスト・映画監督) (あいえお順・敬称略)

うわー!!!! 嬉しいときはこんなふうに鳥肌が立つんですね! 嬉しい嬉しいと100回くらい書きたい気持ちです。再会、もとい「新しい出会い」を、このクラウドファンディングを通して多くの方と楽しみに待てる、そう考えると、いくらこんな時代とはいえ、なんだかガッツも湧いて出てきます。

三宅唱さん(映画監督)

暗い場内。大きなスクリーン。腹に響く音響。そして何よりも、周囲にいる知らない人たちの吐息。

微かな嗚咽。抑えた笑い声。

これらすべて含めて、映画なのだと思う。つまり映画とは映画館そのもの。一人で観る配信やスマホの映像は、やはり映画とは違う。

人生のほとんどは大きさだけで、3分の1くらいは映画で学んだと思う。映画が好きだからこそ、映画館を応援します。

森達也さん(映画監督)

ミニシアターは、世界の社会的問題のあり様を知る貴重な場所である。

この40年間、名古屋中心部の東西で、お互い個性を出し合いのぎを削って来た。

この緊張関係が豊かな映画環境をもたらす。新館の誕生に向けて、皆様の支援をお願い致します。

木全純治さん(シネマスコール代表)

1989年、わたしは23才だった。

忙しい日々の中、自分の時間を見つめるのが困難で息の仕方もわからなくなるような状態だった。そんなある日、珍しく仕事がなにもないお休みの朝がやってきた。

いつもはお昼過ぎまで寝てしまうのに午前中にバッチリと目覚めた。

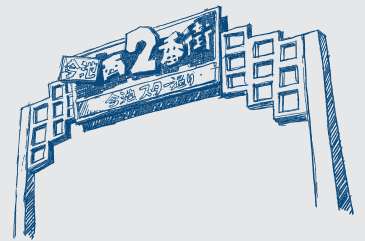
「こんなに気持ちよく目覚められるなんて神様が私に言いたいことがあるのかもしれない」なんて思った。自分の心に意識を集中してみたら、ひとり街をブラブラしたい! 映画なんかも観たりして! そんな気分になった。

渋谷までそう遠くない場所に住んでたので「シネマライズ」というミニシアターまで歩いて行ってみた。「バグダッド・カフェ」という映画が上演中だった。生まれて初めて一人で映画を観た。

脚本も、映像も、お芝居も、音楽も素晴らしくて夢中になって観た。映画館を出て思い切り深呼吸をしてみたら、空や、建物や、街路樹や、目に映る全ての色が変わったように思えた。

そんなことを思い出しました。ミニシアターは重要です!

小泉今日子さん(歌手、俳優など)





クラウドファンディング リンク

<https://motion-gallery.net/projects/nagoyakinema-neu>



公式サイト

<https://nk-neu.com/>



公式X

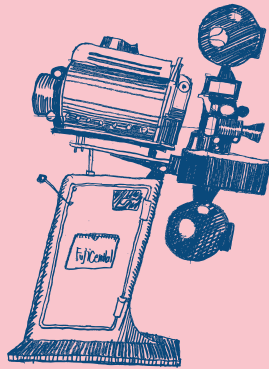
@nkn_2024



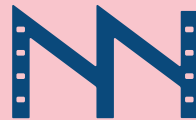
公式インスタグラム

@nkn_2024

【お問い合わせ】 ナゴヤキネマ・ノイ
nagoyaKneu@gmail.com



★地下鉄・東山線、桜通線「今池駅」
⑩ 番出口から徒歩3分
「今池スタービル」2F



NAGOYAKINEMA
NEU

ナゴヤキネマ・ノイ

〒464-0850 名古屋市千種区今池 1-16-13 今池スタービル 2F